

日刊メタルレポート

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話(06)6932-5443代表北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話(076)444-6836

購読料 半年44,100円(前納)3ヵ月22,050円

住友金属鉱山電気亜鉛
蒸溜亜鉛・原料指定問屋
亜鉛ドross 滓買入

大阪亜鉛工業株式会社

取締役社長 林 昭宏

〒554-0052 大阪市西淀川区佃四丁目一四番三
〇〇一 電話(〇六)六四七二二五三代表
〒111-0031 東京都墨田区立花二丁目四番五号
〇〇四三 電話(〇三三)三八八二二五

電気銅輸出、輸入ともに減少

自動車はそのほかは調整が続く

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

〇〇ドル上昇しての前半締めとなった。後半は米格付け会社S&Pによるフランスを含む欧州九カ国の格下げ、それに伴うEFSF(欧州金融安定基金)の格下げなどマイナスイメージもあつたが、IMFが欧州対策費として新たに三八兆円の資金増強を検討していること、オバマ大統領が一般教書演説でイラク・アフガニスタン戦争終結に伴い戦費の半分のインフラ整備に投資するとの報道を受け急騰するも、二月一日現在、旧正月明けの上海銅が期待ほど上昇しなかったことによる失望感から調整し、八、四八五ドル(セツル)と前半締めから五〇〇ドル強上昇、建値六八万円のスタートとなった。

【前月の経済指標】

◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比一・二%増の八四万八、二〇八台であった。

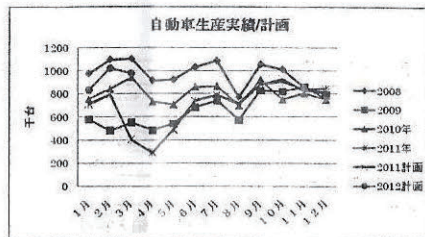
◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比一八・六%増の二六万三、二六七台(前年比四〇・七%増)。

◆三ヵ月間の自動車生産計画は昨年対比四九・二%増の二八四万一、五〇〇台。

〇三面へ続く

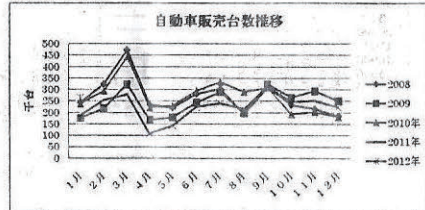
◆自動車生産台数	10月	11月	12月
生産台数	90万4247台	83万8135台	84万8208台
前月比	+2.3%	-7.3%	+1.2%
昨年対比	+20.3%	+4.5%	+13.4%
◆自動車販売台数	11月	12月	1月
販売台数	25万2236台	22万1960台	26万3267台
前月比	+1.7%	-12%	+18.6%
昨年対比	+24.1%	+23.5%	+40.7%
◆生産計画台数	1月	2月	3月
生産計画台数	83万6800台	102万6500台	97万9200台
前月比	+1%	+22.8%	-4.6%

自動車生産台数推移



出典: 日本自動車工業会

自動車販売台数推移



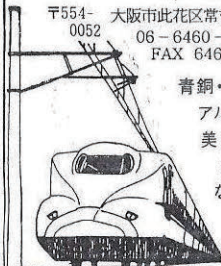
出典: 日本自動車販売協会連合会

新幹線を支える

イグチの銅合金インゴット

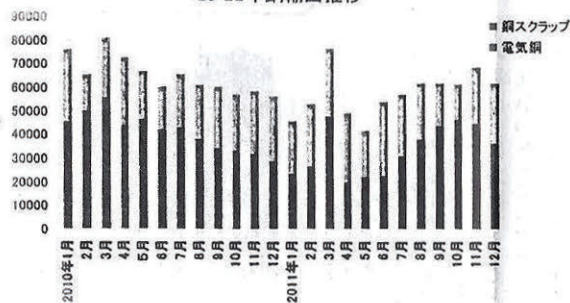
高品質を追求するイグチの銅合金地金は
鉄道架線金具に使用され、新幹線やJR
各線の安全運転のお役に立っています

株式会社 イグチ

〒554-0052 大阪市此花区常吉2-3-53
06-6460-2246代表
FAX 6460-2355青銅・リン青銅
アルミ青銅
美術青銅
鉛青銅
など各種N700系
のぞみ
(時速300km)

輸出	10月	11月	12月
電気銅	4万6384 t	4万4532 t	3万6046 t
前月比	+5.9%	-4%	-19.1%
スクラップ	1万4786 t	2万3384 t	2万5687 t
前月比	-17.3%	+68.1%	+9.8%
輸出推移			

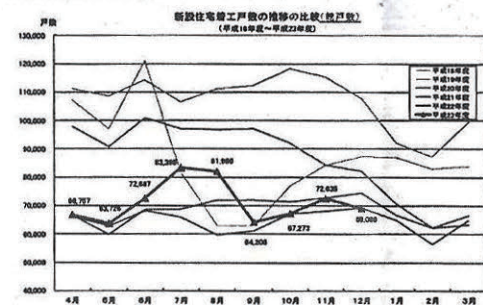
10-11年銅輸出推移



◆貿易関連指標
財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が一九・一％減の三万六、〇四六t、スクラップが九・八％増の二万五、六八七t。

	10月	11月	12月
新設住宅着工数	6万7273戸	7万2635戸	6万9069戸
季節調整 前月比	+3.9%	+9.1%	-5%
昨年対比	-5.8%	-0.3%	-7.3%

新設住宅着工数推移



出典 国土交通省 統計

◆新設住宅着工戸数
国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)五％減(昨年比七・三％減)の六万九、〇六九戸であった。

LME銅相場は下落の可能性も

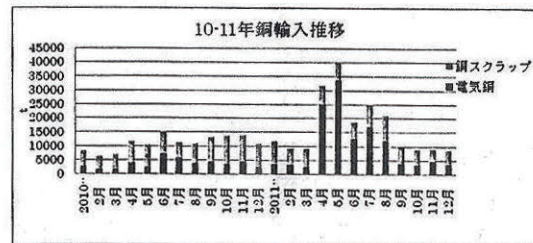
中国金融緩和期待も欧州問題で

輸入は電気銅が前月比二一・六％減の三、六四六t、スクラップが九・六％増の五、一一四t。

輸入	10月	11月	12月
電気銅	3400 t	4650 t	3648 t
前月比	-10.6%	+36.8%	-21.6%
スクラップ	5800 t	4668 t	5114 t
前月比	-9.7%	-16.7%	+9.6%

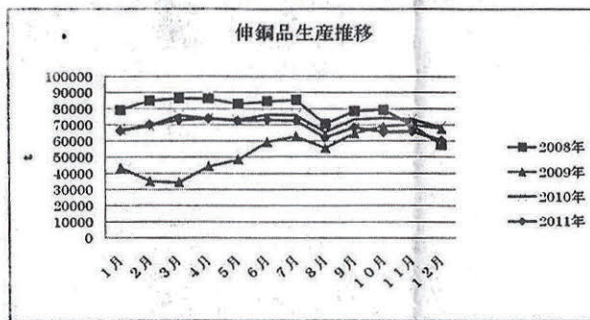
輸入推移

10-11年銅輸入推移



出典 財務省 貿易統計

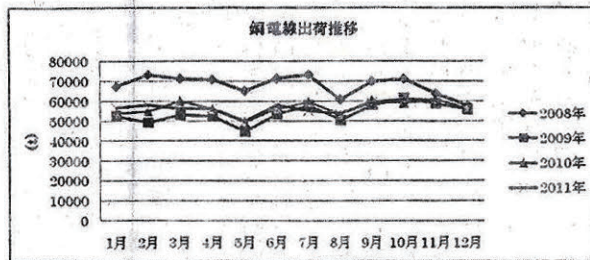
日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前月比三・三％減の五万八、四〇〇tであった(昨年対比二・九％増)。(六面に続く)



出典 日本伸銅協会

【前月の国内指標】
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移速報によれば、前月比八・二％減の六万〇、五三〇t(昨年対比二・一％減)

(二面より続く)



出典 日本電線工業会

新設住宅着工数は季節調整前月比5%減の六万九、〇六九戸。前年比は七・三%減とここ数カ月一進一退、急回復はなくこの調子が続きそうである。

輸出に関しては緊急輸入の電気銅の荷余りが改善、電気銅輸出が前月比一九・一%減の三万六、〇四六tと二カ月続きの減少。

ただ輸入も内需の低迷を受け、電気銅は前月比二一・六%減の三、六四六t。

銅需給に関しては、ここ半年自動車関連には、本格的な需要を前提とした販売・計画が続き回復は確実視している。販売面でも自動車が前年比四〇・七%増と大幅回復した。しかしその他の関連は、二カ月連続調整している伸銅品、黄銅棒の生産は需要の悪化から引き続き大幅調整が続くであろう。緊急輸入がされていた電気銅は先月(前月比)三七%増と再び増加し調整が進んだとの見方もあったが、今回二二%減と急減しており更なる調整が予測され、ファンダメンタルズはさらに悪化する。

【見通し】
前月に続き、自動車関連以外が生産、在庫調整がさらに進んだ月となった。

自動車生産は前年比一三・四%増の八四万八、二〇八台と五カ月連続上昇、ついに震災前の水準を大幅超える結果となった。

また国内自動車販売台数も二六万三、二六七台で前年比四〇・七%増と急上昇、また一〜三月の自動車生産計画が四九%増と自動車関連は絶好調。

ただ使用用途が多い伸銅品生産量は前月比八・二%減の六万〇、五三〇tの昨年対比一二・一%減と七カ月連続の前年割れ。

銅電線出荷量は、前月比三・三%減の五万八、四〇〇t、昨年対比二・九%増と小幅上昇、自動車向けに助けられた形に。

ポルトガルの国債利回り低下

欧州株は急伸

欧州問題になお先行き不透明感

一日の欧州金融市場では、ポルトガルの一〇年物国債利回りが依然として高水準ながら、一五・二%台(前日終盤は一六・五%台)に大幅低下(価格は上伸)した。ただ、リスク回避の動きは一服しているものの、欧州債務問題の先行き不透明感から売り圧力は引き続き強い。

一方、欧州主要株式市場の株価は軒並み大幅続伸した。中国の製造業関連指標が市場予想を上回ったほか、ギリシャの債務削減交渉

が合意するとの期待感を背景に、序盤から堅調に推移。ニューヨーク株価の上昇を受け、上げ幅を拡大した。

米雇用関連指標などは市場予想を若干下回ったものの、影響は限定的だった。

ロンドン市場のFT-100種平均株価指数は前日終値比一九・二%高、フランスのCAC40種指数は二・〇九%高、ドイツ株式主要三〇銘柄指数(DAX)は二・四四%高、イタリアのMIB指数は二・七六%高で終了した。

銅価格に関しては、米国の好調な経済指標、中国の銅輸入の好調、中国の十〜十二月のGDP好調から同国経済のソフトランディング予測を背景に中国春節明けの上昇を期待し買い進まれたものの、上海銅が期待ほど上昇しなかったこと、また米GDPの下方修正や三月に債還を迎えるギリシャ債に伴うギリシャ政府と民間企業の債務交換会合の混乱が継続、中国金融緩和やFOMCのQE3期待で上昇場面はあるものの、それを使う前提として欧州内のコンセンサスが未解決であり最終的には下落を予測、LME価格で七、五〇〇〜八、五〇〇ドル。銅建値に関しては六二〜七〇万円程度と予測している。